

## 別紙1 関係施設向けアンケート集計について

### 1. アンケートを実施するにあたって、はじめに貴施設についてお伺いします。

#### ○回答率について

485件の依頼に対して105件の回答があり、全体の回答率は22%となった。特に『市立小・中・義務教育学校』の回答率が70%と突出している。また、『市立幼稚園』『私立幼稚園』の回答率も高く、これらの施設からの未来センターに対する認知度や関心が高いことが伺える。

一方で、『留守家庭児童育成センター』からの回答率が2%と低く、『児童発達支援、放課後等デイサービス』からの回答率も10%であったため今後の課題といえる。

施設名	依頼数	回答数	割合	回答率
市立幼稚園	21	9	9%	43%
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	38	13	12%	34%
市立保育所	23	1	1%	4%
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	69	13	12%	19%
地域型保育事業所	60	6	6%	10%
認可外保育施設	71	12	11%	17%
市立小・中・義務教育学校	60	42	40%	70%
私立小・中学校	9	0	0%	0%
特別支援学校	4	1	1%	25%
公立高等学校	9	0	0%	0%
私立高等学校	7	0	0%	0%
留守家庭児童育成センター	41	1	1%	2%
児童発達支援、放課後等デイサービス	73	7	7%	10%
計	485	105	100%	22%

2 こども未来センターでは専門職員が施設を訪問し、子どもへの対応や支援方法等についての助言や提案を行う『アウトリーチ事業』を実施しています。

2-（1）貴施設において『アウトリーチ事業』を利用したことがありますか。

選択肢	件数	割合
利用したことがある	68	65%
利用したことがない	34	32%
分からない	3	3%
計	105	100%

施設名	利用あり	利用なし	分からない
市立幼稚園	8	1	0
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	10	3	0
市立保育所	1	0	0
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	9	4	0
地域型保育事業所	2	3	1
認可外保育施設	1	10	1
市立小・中・義務教育学校	36	5	1
特別支援学校	1	0	0
留守家庭児童育成センター	0	1	0
児童発達支援、放課後等デイサービス	0	7	0
計	68	34	3

- ・回答があった施設のうち、65%の施設が何らかのアウトリーチ事業を利用していた。
- ・『市立小・中・義務教育学校』での利用率は86%と高くなっている一方で、『認可外保育施設』においては83%が利用したことがないと回答していたため、周知や広報について今後の課題といえる。
- ・『留守家庭児童育成センター』や『児童発達支援、放課後等デイサービス』においては利用したと回答した施設は無かった。どちらもアンケートの回答率が低かったため、統計的に分析することは難しいが、今後ともアウトリーチ事業に対するニーズの分析と周知・広報に努めていく必要がある。

2-(2) 貴施設が利用した『アウトリーチ事業』について、あてはまるものを全て選択してください。

事業名	件数	割合
学校園支援アウトリーチ	46	42%
西宮専門家チーム	36	33%
セラピスト訪問	4	4%
保育所等訪問支援	18	17%
名称はよく分からない	5	5%
計	109	100%

(複数選択可)

事業名	市立 幼稚園	私立 幼稚園	市立 保育所	私立 保育所	地域 型保 育事 業所	認可 外保 育	市立 小・ 中学 校	特別 支援 学校	育成 セン ター	児 発・ デイ	計
学校園支援アウトリーチ	0	13	1	1	0	0	30	1	0	0	46
西宮専門家チーム	3	0	1	0	1	0	31	0	0	0	36
セラピスト訪問	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	4
保育所等訪問支援	4	2	4	1	1	0	6	0	0	0	18
名称はよく分からない	1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	5
計	9	16	6	6	2	1	68	1	0	0	109

(複数選択可)

- ・『学校園支援アウトリーチ』『西宮専門家チーム』を利用したと回答した施設が多かった。これは回答者のうち、『市立小・中・義務教育学校』が40%を占めていることも要因と思われる。
- ・『保育所等訪問支援』を利用したと回答した施設が17%あったが、こども未来センターにおける保育所等訪問支援はわかば園の卒園児の利用に限定しているため、年間の実施件数を考慮すると、事業名について学校園支援アウトリーチと保育所等訪問支援を混同している施設もあるものと推察される。
- ・『名称はよく分からない』と答えた施設は5%と低かったが、これは本アンケートに回答していただいた、いわば協力的な施設における割合であるため、この結果をもってアウトリーチ事業が浸透していると捉えるのは早計である。特に未回答の施設に対するアウトリーチ事業へのさらなる周知が必要と考える。

2- (3) 貴施設に訪問した職員について、あてはまるものを全て選択してください。

職種	件数	割合
心理療法士	48	38%
西宮専門家チーム相談員	39	30%
理学療法士	4	3%
作業療法士	11	9%
言語聴覚士	7	5%
保育士	11	9%
分からない	8	6%
計	128	100%

(複数選択可)

職種	市立 幼稚園	私立 幼稚園	市立 保育所	私立 保育所	地域 型保 育事 業所	認可 外保 育	市立 小・中 学校	特別 支援 学校	育成 セン ター	児童 発 達、 放デ イ	計
心理療法士	7	8	1	6	0	1	25	0	0	0	48
西宮専門家チーム相談員	3	1	1	3	1	0	30	0	0	0	39
理学療法士	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	4
作業療法士	3	0	0	0	0	0	7	1	0	0	11
言語聴覚士	3	0	0	2	0	0	2	0	0	0	7
保育士	3	2	0	4	1	0	1	0	0	0	11
分からない	0	1	0	4	1	0	2	0	0	0	8
計	19	12	2	20	3	1	69	2	0	0	128

(複数選択可)

- 職種の区分については概ねアウトリーチ事業の利用の割合に近いものになった。
- 訪問した職種が分からないと回答した施設もあるため、今後、アウトリーチ事業のさらなる周知とともに取り組んでいく必要がある。

2-(4)『アウトリーチ事業』を利用する際の担当者との事前連絡や調整については円滑に行うことが出来たか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とても円滑に行うことが出来た	20	29.4%
円滑に行うことが出来た	42	61.8%
どちらでもない	5	7.4%
あまり円滑ではなかった	1	1.5%
円滑ではなかった	0	0.0%
計	68	100%

○事業別

	とても円滑	円滑	どちらでもない	あまり円滑でない	円滑でない	計
学校園支援アウトリーチ	16	27	2	1	0	46
西宮専門家チーム	11	22	3	0	0	36
セラピスト訪問	2	2	0	0	0	4
保育所等訪問支援	4	12	2	0	0	18
名称はよく分からない	1	4	0	0	0	5
計	34	67	7	1	0	109

(複数選択可)

- 各種アウトリーチ事業における利用する際の担当者との事前連絡や調整については 90%以上の施設が『円滑に行えた』と回答があったが、一方で『どちらでもない』等の評価をしている施設もあり、職員と連絡が取りづらいとの声もあることから、今後とも施設との連絡については丁寧な対応が求められる。

2-(5)『アウトリーチ事業』を利用した際、スタッフの説明・対応は分かりやすく、理解できましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とても理解出来た	26	38%
理解出来た	36	53%
どちらでもない	3	4%
あまり理解できなかった	2	3%
理解できなかった	0	0%
空欄（未回答）	1	1%
計	68	100%

○事業別

	とても理解できた	理解できた	どちらでもない	あまり理解できない	理解できない	空欄	計
学校園支援アウトリーチ	21	21	2	1	0	1	46
西宮専門家チーム	14	18	2	1	0	1	36
セラピスト訪問	2	1	0	1	0	0	4
保育所等訪問支援	5	11	0	2	0	0	18
名称はよく分からない	1	4	0	0	0	0	5
計	43	55	4	5	0	2	109

- ・スタッフの説明・対応については90%以上の施設が『理解できた』との回答であった。一方で施設によっては『あまり理解できなかった』と回答していることもあり、引き続き施設のニーズに応じた対応が求められる。

2-(6)『アウトリーチ事業』の利用が、貴施設において職員の新たな気づきや振り返りとなり、支援力の向上や効果的な支援につながりましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とてもつながった	26	38%
つながった	33	49%
どちらでもない	5	7%
あまりつながらなかった	3	4%
つながらなかった	0	0%
空欄（未回答）	1	1%
計	68	100%

○事業別

	とても つなが った	つな が つ た	ど ち ら で も な い	あ ま り つ な が ら な い	つ な が ら な い	空 欄	計
学校園支援アウトリーチ	21	21	2	1	0	1	46
西宮専門家チーム	14	18	2	1	0	1	36
セラピスト訪問	2	1	0	1	0	0	4
保育所等訪問支援	5	11	0	2	0	0	18
名称はよく分からない	1	4	0	0	0	0	5
計	43	55	4	5	0	2	109

- 概ね90%近くの施設が、アウトリーチ事業について職員の新たな気づきや振り返りとなり、支援力の向上や効果的な支援につながったと回答している。本項目がアウトリーチ事業のまさに根幹部分であるため、引き続きこども未来センターにおける支援力の向上に努めていく必要がある。

2-(7)『アウトリーチ事業』が、貴施設とこども未来センターとの効果的な連携や情報共有の手段となりましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とてもなった	24	35%
なった	33	49%
どちらでもない	7	10%
あまりならなかった	1	1%
ならなかった	3	4%
空欄（未回答）	0	0%
計	68	100%

○事業別

	とても なった	なった	どちら でもない	あまり ならない	ならない	空欄	計
学校園支援アウトリーチ	18	23	4	0	1	0	46
西宮専門家チーム	15	16	4	0	1	0	36
セラピスト訪問	2	1	0	0	1	0	4
保育所等訪問支援	2	11	2	1	2	0	18
名称はよく分からない	3	2	0	0	0	0	5
計	40	53	10	1	5	0	109

- ・効果的な連携や情報共有の手段となったと回答した施設は84%であった。一方で『ならなかった』と回答した施設もあるなど、必ずしも継続した連携につながっていないケースもあるが、今後とも施設の特性に合わせた支援を継続していく。



2-(8) 2-(1)を『利用したことがない』と選択した理由について、あてはまるものを選択してください。

選択肢	件数	割合
知らなかった	10	29%
知っていたが、利用の仕方が分からなかった	5	15%
知っていたが、利用する必要がなかった	15	44%
その他	3	9%
空欄（未回答）	1	3%
計	34	100%

	知らなかった	利用の仕方不明	利用の必要無し	その他	空欄
市立小・中・義務教育学校	1	0	3	1(a)	0
市立幼稚園	0	0	1	0	0
私立保育所	1	0	2	0	1
私立幼稚園	0	1	2	0	0
児童発達支援・放デイ	3	1	2	1(b)	0
地域型保育事業所	2	1	0	0	0
認可外保育施設	3	2	4	1(c)	0
留守家庭児童育成センター	0	1	0	0	0
計	10	6	14	3	1

（その他）

- (a)西宮養護学校のアウトリーチを利用した
  - (b)1の質問で該当項目がなかったため、児童発達支援事業所を選択しています。  
病院であるため該当項目はなし。
  - (c)知っていたが、対象となるかがわからなかったため利用していなかった。
- アウトリーチ事業を利用しなかった施設のうち、44%の施設が『利用の必要が無かった』と回答した。
- アウトリーチ事業を『知らなかった』施設と『利用の仕方が分からなかった』施設も44%を占めており、アウトリーチ事業に対する認知度は決して高いものでは無かった。
- 今後はアウトリーチ事業が施設にとってより分かりやすく、利用しやすいものになるよう横断的な見直しを行うとともに、さらなる周知に取り組んでいくことが重要である。

2-(9)『アウトリーチ事業』に関する各設問への回答の理由や、ご意見・ご感想等があればご記入ください。

①市立小・中・義務教育学校

『利用したことがある』

- 県のSCが配置されていることからアウトリーチの活用ができなかったケースがありましたが、活用できればありがたかったです。
- 大変値打ちある事業だと思います。これからもさらなる連携をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
- コロナで職員の方々の派遣も、厳しい状況にあるように思います。学校側でアウトリーチのためにスケジュールを調整して、実施する際に、来られる予定の方が感染で来られなくなった場合の対応策も考えていただけたら助かります。
- 1回の訪問にとどまらず、継続的に関わっていただけると、もっと児童の成長につながる支援ができると思います。アドバイスいただいたことが、うまくいかなかったとき、次へのステップを行いたいとき、また我々の関わりが誤っているとき等の、専門的な指導を受けたい。児童が落ち着くまで、継続的に指導を受けたい。
- アウトリーチ事業により、専門家の意見を学校の教育活動に生かすことができ、教職員の力量を高め、子供たちのためにもなっている。一方で、アウトリーチ全体と、学校園アウトリーチの名称が重なっており、わかりにくいことがあります。また、各事業の説明がもっとわかりやすくなるような、Q&Aなどの資料があるとよい。学校園支援アウトリーチは、保護者には伝えないことや、スクールカウンセラーと支援が重ならない、複数回の支援ではない、などのことが学校現場では周知できていないことが多いと感じました。
- 心理療法士を指名したいが、対応されていない。
- 子どもの訓練の内容や支援の手だてなどを詳しく教えていただき、とても参考になりました。いろいろな子について、アウトリーチでつながることができればと思うのですが、こちらがバタバタしてなかなか動けていないのが申し訳ないです。
- 専門家チームアウトリーチの利用は2年前のことですが、保護者に直接学校での行動が「児童にとってのSOS信号だ」という内容の話を伝えていただきました。専門家からのアプローチは、子どもの特性を正しく理解して、適切に関わることが本人の成長に繋がるということを伝えることができると感じます。保護者の心に響いたと感じました。
- 一概にアウトリーチ事業といっても、来校される方によって「一緒に相談をする」姿勢や、「教えてあげる」姿勢と大きな違いが見られ、回答に難しさがあります。
- 心理士の来校に関しては、円滑で具体的に相談ができ利用しやすく感じます。
- 専門家チームや保育所等訪問に関しては具体的なねらいが見えず保護者の代弁者のような対応になっていることも多い。来られることで多くの時間が割かれてしまったり、学校や家庭の一日の事が考えられず支援の量を無制限に求められたりと負担になることが非常に多かったです。

## ②市立幼稚園

『利用したことがある』

- 専門家の意見を聞けることは大変参考になる。
- 継続して園や子どもに関わってもらえる体制を希望します。人が、変わると変化、成長、効果など共有し、次の手立てを探りにくい。また、職員と方向性を共有したかたたくめるような仕組みが良い。

## ③私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）

『利用したことがある』

- 非常にありがたい制度でした。園だけでは一面的となりがち子どもへの見立ても、専門家の方の客観的な見立てによって、対象児への見方や支援の仕方を選択肢が増えます。また、保護者に対して的確な助言につながります。
- 2-(6)については、新たな気づきや効果的な支援につながるには心理士の先生によるところがあるので、指名ができるようにしていただきたいです。
- 特にありません。感謝だけです。
- 勉強の機会になりました。

## ④私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）

『利用したことがある』

- 特にありません

『利用したことがない』

- 未来センターは忙しそうな印象が強く、支援を求めにくい。

## ④認可外保育所

『利用したことがない』

- どの様に相談したらよいか、分からなかった。
- 現在、当園に療育に通っているお子さんが2名おられます。4月から公立の保育所に転園にならない場合でアウトリーチに該当するのであれば利用したいと考えています。

3 こども未来センター診療所では、学校園や施設の担当者に利用者のリハビリ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の様子を見学して頂き、担当セラピストより担当者に指導・助言を行う事業を行っています。

3-（1）貴施設の職員が、こども未来センター診療所のリハビリを見学したことはありますか。

選択肢	件数	割合
見学したことがある	45	43%
見学したことがない	55	52%
分からない	5	5%
計	105	100%

施設名	見学したことがある	見学したことがない	分からない	計
市立幼稚園	6	2	1	9
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	3	10	0	13
市立保育所	0	1	0	1
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	7	6	0	13
地域型保育事業所	0	6	0	6
認可外保育施設	2	9	1	12
市立小・中・義務教育学校	25	14	3	42
特別支援学校	1	0	0	1
留守家庭児童育成センター	0	1	0	1
児童発達支援、放課後等デイサービス	1	6	0	7
計	45	55	5	105

- ・回答があった施設のうち、43%の施設がリハビリを見学していた。
- ・施設に未来センターのリハビリを受けている利用者がある場合に利用できる事業のため、今後とも施設の支援のニーズの把握と、広報・周知に努める必要がある。

3-(2) リハビリを見学する際の担当者との事前連絡や調整については円滑に行うことが出来ましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とても円滑に行うことが出来た	15	33%
円滑に行うことが出来た	25	56%
どちらでもない	5	11%
あまり円滑ではなかった	0	0%
円滑ではなかった	0	0%
計	45	100%

施設名	とても円滑	円滑	どちらでもない	あまり円滑でない	円滑でない	計
市立幼稚園	3	3	0	0	0	6
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	1	1	2	0	0	4
市立保育所	0	0	0	0	0	0
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	0	6	0	0	0	6
地域型保育事業所	0	0	0	0	0	0
認可外保育施設	1	0	1	0	0	2
市立小・中・義務教育学校	9	14	2	0	0	25
特別支援学校	1	0	0	0	0	1
留守家庭児童育成センター	0	0	0	0	0	0
児童発達支援、放課後等デイサービス	0	1	0	0	0	1
計	15	25	5	0	0	45

- ・見学する際の担当者との事前連絡や調整については90%近くの施設が『円滑に行えた』と回答があったが、一方でセラピストが日中はリハビリに従事しているため、連絡が取りづらいとの声もあることから、連絡体制については検討の余地がある。

3-(3) リハビリを見学した際、スタッフの説明・対応は分かりやすく、理解できましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とても理解出来た	15	33%
理解出来た	26	58%
どちらでもない	3	7%
あまり理解できなかった	1	2%
理解できなかった	0	0%
計	45	100%

施設名	とても理解	理解	どちらでもない	あまり理解できない	理解できない	計
市立幼稚園	2	4	0	0	0	6
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	1	1	1	0	0	3
市立保育所	0	0	0	0	0	0
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	1	5	1	0	0	7
地域型保育事業所	0	0	0	0	0	0
認可外保育施設	1	1	0	0	0	2
市立小・中・義務教育学校	9	14	1	1	0	25
特別支援学校	1	0	0	0	0	1
留守家庭児童育成センター	0	0	0	0	0	0
児童発達支援、放課後等デイサービス	0	1	0	0	0	1
計	15	26	3	1	0	45

- ・スタッフの説明・対応については90%以上の施設が『理解できた』との回答であった。引き続き施設のニーズに応じた対応が求められる。

3-(4) リハビリの見学が、支援力の向上や効果的な支援につながりましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とてもつながった	16	36%
つながった	27	60%
どちらでもない	1	2%
あまりつながらなかった	0	0%
つながらなかった	1	2%
計	45	100%

施設名	とてもつながった	つながった	どちらでもない	あまりつながらない	つながらない	計
市立幼稚園	3	3	0	0	0	6
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	1	1	1	0	0	3
市立保育所	0	0	0	0	0	0
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	1	6	0	0	0	7
地域型保育事業所	0	0	0	0	0	0
認可外保育施設	1	1	0	0	0	2
市立小・中・義務教育学校	9	15	0	0	1	25
特別支援学校	1	0	0	0	0	1
留守家庭児童育成センター	0	0	0	0	0	0
児童発達支援、放課後等デイサービス	0	1	0	0	0	1
計	16	27	1	0	1	45

- ・96%の施設が支援力の向上や効果的な支援につながったと回答している。引き続き専門性の向上に取り組みつつ、さらなる支援力の向上に努めてまいりたい。

3-(5) リハビリの見学が、貴施設とこども未来センターとの効果的な連携や情報共有の手段となりましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とてもなった	15	33%
なった	23	51%
どちらでもない	5	11%
あまりならなかった	1	2%
ならなかった	1	2%
計	45	100%

施設名	とても なった	なった	どちら でもな い	あまり ならな い	ならな い	計
市立幼稚園	3	3	0	0	0	6
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	1	1	1	1	0	4
市立保育所	0	0	0	0	0	0
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	1	5	0	0	0	6
地域型保育事業所	0	0	0	0	0	0
認可外保育施設	1	1	0	0	0	2
市立小・中・義務教育学校	9	11	4	0	1	25
特別支援学校	0	1	0	0	0	1
留守家庭児童育成センター	0	0	0	0	0	0
児童発達支援、放課後等デイサービス	0	1	0	0	0	1
計	15	23	5	1	1	45

- ・効果的な連携や情報共有の手段となったと回答した施設は84%であった。一方で『ならなかった』と回答した施設もあるなど、リハビリ見学を行った後に必ずしも継続した連携につながっていないケースもみられる。今後とも施設の特性に合わせた支援を継続していく。



3-(6) 診療所のリハビリ見学に関する各設問への回答の理由や、ご意見・ご感想等があればご記入ください。

○指導時間内のことなので話そうにも十分な時間がなく、説明を十分把握することが難しいです。

○本校では通級担当、特別支援教育コーディネータが見学に行かせていただいたが、今後、他の職員も見学する機会ができれば、と思っています。よろしくお願いします。

○リハビリ見学により、子供の個別の支援の方法を理解することができた。保護者にとっても、学校の教職員が連携をしていることで安心してもらえたと思う。

○実際に見学に行かせていただいたのは、数年前です。

○訓練の様子を見せていただいたり、子どもの特性や支援のアドバイスをいただけて、とても勉強になりました。ありがとうございます。

○今後も情報発信していただき、見学等させていただきたく思います。

○個別にアポイントをとって見学するとなると、その理由や必要性にハードルが高いため、また、昔のように見学会みたいな時を設けていただけたら、いきやすいですが、少し、このコロナ禍が終わらないと、こちらも行かせてもらうのが無理だったりします。

○数名の園児がリハビリを受けており見学の際には、いつも丁寧なアドバイスをありがとうございます。

- ・リハビリ見学の依頼に関して、FAX 送信しても確認ができていない時がありました。スムーズな手続きができればと思います。
- ・見学の際に保護者の次回の予約の場面で、なかなか決まらずお子さんが静かに待っていらっしゃらなかった。表情がとても厳しく、受付の方の対応がもう少しご家庭に寄り添ってもらえたらと感じました。

○気軽に行きにくい。

○「未来センターから先生に見に来てと伝えてと言われた。」と保護者から伝えられたにもかかわらず、学校から見学申し込みを届け出ることに大きな疑問を感じます。

4 こども未来センター診療所では主に学齢期の児童生徒に対して、医療と教育が連携し、発達に沿った支援を検討する『支援会議』を開催しています。支援会議には学校園等の関係者とこども未来センターの医師・関係職員が参加しています。

4-（1）貴施設の職員が、支援会議に参加したことはありますか。

選択肢	件数	割合
参加したことがある	58	55%
参加したことがない	41	39%
分からない	6	6%
計	105	100%

施設名	参加したことがある	参加したことがない	分からない	計
市立幼稚園	9	0	0	9
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	3	9	1	13
市立保育所	0	1	0	1
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	2	10	1	13
地域型保育事業所	0	6	0	6
認可外保育施設	1	10	1	12
市立小・中・義務教育学校	35	4	3	42
特別支援学校	1	0	0	1
留守家庭児童育成センター	1	0	0	1
児童発達支援、放課後等デイサービス	6	1	0	7
計	58	41	6	105

- ・回答があった施設のうち、55%の施設が支援会議に参加したことがあると回答。
- ・『市立小・中・義務教育学校』『市立幼稚園』での参加率は高くなっている一方で、『私立保育所』『地域外保育所』『認可外保育施設』における参加率は低かった。
- ・『児童発達支援、放課後等デイサービス』においてはアウトリーチ事業の利用率は低かったが、支援会議への参加率は高くなっていることから、現在のところ『児童発達支援、放課後等デイサービス』事業所との連携については主に支援会議が中心となっている。

4-(2) 支援会議に参加する際の担当者との事前連絡や調整については円滑に行うことが出来ましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とても円滑に行うことが出来た	17	29%
円滑に行うことが出来た	37	64%
どちらでもない	2	3%
あまり円滑ではなかった	1	2%
円滑ではなかった	0	0%
空欄（未回答）	1	2%
計	58	100%

施設名	とても円滑	円滑	どちらでもない	あまり円滑でない	円滑でない	空欄	計
市立幼稚園	1	8	0	0	0	0	9
私立幼稚園（幼稚園型認定こども園含む）	1	1	1	0	0	0	3
市立保育所	0	0	0	0	0	0	0
私立保育所（幼保連携型認定こども園含む）	0	2	0	0	0	0	2
地域型保育事業所	0	0	0	0	0	0	0
認可外保育施設	1	0	0	0	0	0	1
市立小・中・義務教育学校	14	20	0	1	0	0	35
特別支援学校	0	1	0	0	0	0	1
留守家庭児童育成センター	0	1	0	0	0	0	1
児童発達支援、放課後等デイサービス	0	4	1	0	0	1	6
計	17	37	2	1	0	1	58

・担当者との事前連絡や調整については93%の施設が『円滑に行えた』と回答があった。

4-(3) 支援会議への参加が、支援力の向上や効果的な支援につながりましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とてもつながった	16	28%
つながった	35	60%
どちらでもない	4	7%
あまりつながらなかった	1	2%
つながらなかった	1	2%
空欄（未回答）	1	2%
計	58	100%

施設名	とても つなが った	つな が った	ど ち ら で も な い	あ ま り つ な が ら な い	つ な が ら な い	空欄	計
市立幼稚園	2	7	0	0	0	0	9
私立幼稚園（幼稚園型 認定こども園含む）	0	2	1	0	0	0	3
市立保育所	0	0	0	0	0	0	0
私立保育所（幼保連携 型認定こども園含む）	0	2	0	0	0	0	2
地域型保育事業所	0	0	0	0	0	0	0
認可外保育施設	1	0	0	0	0	0	1
市立小・中・義務教育 学校	12	20	2	0	1	0	35
特別支援学校	0	1	0	0	0	0	1
留守家庭児童育成セン ター	0	1	0	0	0	0	1
児童発達支援、放課後 等デイサービス	1	2	1	1	0	1	6
計	16	35	4	1	1	1	58

・88%の施設が支援力の向上や効果的な支援につながったと回答している。

4-(4) 支援会議への参加が、貴施設とこども未来センターとの効果的な連携や情報共有の手段となりましたか。あてはまるものを1つ選択してください。

選択肢	件数	割合
とてもなった	19	33%
なった	33	57%
どちらでもない	3	5%
あまりならなかった	1	2%
ならなかった	1	2%
空欄（未回答）	1	2%
計	58	100%

施設名	とても なった	なった	どちら でもない	あまり ならない	ならない	空欄	計
市立幼稚園	3	6	0	0	0	0	9
私立幼稚園（幼稚園 型認定こども園含 む）	0	2	1	0	0	0	3
市立保育所	0	0	0	0	0	0	0
私立保育所（幼保連 携型認定こども園含 む）	0	2	0	0	0	0	2
地域型保育事業所	0	0	0	0	0	0	0
認可外保育施設	1	0	0	0	0	0	1
市立小・中・義務教 育学校	13	20	1	0	1	0	35
特別支援学校	1	0	0	0	0	0	1
留守家庭児童育成セ ンター	0	1	0	0	0	0	1
児童発達支援、放課 後等デイサービス	1	2	1	1	0	1	6
計	19	33	3	1	1	1	58

- ・90%の施設が、こども未来センターとの効果的な連携や情報共有の手段となったと回答している。
- 4-(5) 支援会議に関する各設問への回答の理由や、ご意見・ご感想等があればご記入ください。

○すべての支援会議ではないですが、こういった活動、生活をしているかの報告会のようなもので、個人的には必要性が感じられません。

保護者自身にも心身の問題もある場合や、事業所側は利用していただいて金銭が発生する点もあるため、厳しい内容を伝えて、保護者の反感を買い、それじゃ利用しませんとなると、事業継続にも支障がでてくる為に、忌憚のない意見が言いにくく、当たり障りのない意見ばかりになる為です。

別の市では相談支援員が各事業所を訪問し、相談支援員と事業所職員が話し、各事業所での話の取りまとめをして、その中で相談支援員が保護者に伝えるべき事項か判断をしていただき、その内容をもって、保護者と相談支援員が話し合いをしているところなどあります。

何回かやっていると相談支援員との信頼感もできるので、以後の連携もスムーズになります。西宮市の推進している、本人中心支援計画とは反しますがそういった意見もあると、この機会にさせていただきました。

○支援会議の内容をもっと詰めたほうが良いと思います。人手不足だと思いますが、子どもたち全員をできるようになれば有難いです。

○毎年対象児童が増えているため、会議時間設定を 30 分程度にさせていただけるとありがたいです。

○日程調整など、ご苦労をおかけすることとなりましたが、今後もさらなる連携をお願いします。よろしくをお願いします。

○Dr.を始め、学校現場のことをよく理解した上で、支援方法や子供の様子について話をさせていただけるので、とてもありがたいです。保護者が一方的に多くの支援を学校に求めることがあり、苦慮することもあります。今後も学校現場の状況を知っていただき、保護者にも診察時に話していただき、支援会議で子供の支援についてしっかりと共有できたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。

○学校抜きでの支援会議も何例かあった。学校も含めて三者で進められるとうれしいです。

○もう少し、担当 Dr.等との支援会議の機会を増やしたいが、とてもお忙しいのでなかなか予定が合わず、残念に思う。

○保護者や放課後デイの先生方とつながることができる貴重な機会だと思います。ありがとうございます。

○ドクター支援会議は担当医師のとの貴重な情報交流の機会になっていると思います。ただ、双方ともに時間がなく、タイムリーにはいかない難しさがあります。

○未来センター診療所の考え方を知る機会にはなるが、学校現場が求める効果的な支援のあり方や、具

体的な支援方法を得られるには至らない事が多い。

○具体的に指導をいただきました。

○対応の難しい（実態が複雑）児童・生徒に対して、手立てを打ち変化が見られているケースを未来センターが持っているなら、そのアセスメント方法、手立て等をシェアして欲しい。

○支援会議と掲げるのであれば、「周りが理解してあげる」だけでなく、その子にどのような手立てを打つべきなのかをきちんと出していくべきだと思います。

○会議前に配布していただく資料の中に、事業所の「個別支援計画」、学校の「個別の教育計画」の内容もふれていただけるとより参考になると思いました。

## 5 こども未来センター全体に関するご意見等があればご記入ください。

○こども未来センターに関わりたい保護者がたくさんいます。診断などでOヶ月待ち、という話をよく聞きます。できるだけ早急に対応できる体制作りをお願いします。年々、悩み、相談を抱えている子供、保護者が増加しているように感じています。どうぞ、よろしくお願いします。

○北部地域にあるため、通うことが難しく、相談をしたいが悩まれることが多い。北部にも相談できる未来センターの分校のような施設ができるとありがたい。

本校は、アウトリーチや専門家チームの依頼をたくさんして、たいへんお世話になっています。

○生徒に対しての対応で困っている際に専門的な分野からのアドバイスをいただく事ができ、助かっています。

○開設以来、こども未来センターのニーズはすごく高まっていると思います。今後拡充は難しいとは思いますが、市内の小児科との連携をさらに充実させていただき、学校現場とのつながりを深められたらと思います。

○医療と教育が、一体となり子どもを育てていける体制づくりをお願いします。

○未来センターとのつながりを持ってもらうよう進めることが多いが、実際には混み合っていて、待っていただくことが多い。たくさん案件があると思うので仕方がないと思うが、保護者の不安や、教師の負担を思うと、もう少しなんとかしてほしい。

○発達検査の申込みをして、診断をしてもらえるまでの期間が長すぎるように思います。転籍等をお考えのご家庭が、民間の他機関を頼らざるをえなくなり、学校との支援連携がしにくくなる場面もあるのではないかと考えています。学校での教育的アプローチと医学的アプローチの連携を強化していくための対策を講じていただけたらと思います。

○療育での様子を丁寧に教えてくださり、学校での児童への関わり方も、ポイントを押さえて具体的に教えてくださるので、分かりやすくて、ありがたいです。また、コミュニケーションに課題がある通常学級の児童のアウトリーチを依頼したところ、児童が今、こういう世界を見て、こういう理解をしている、という見立てをしていただいて、それがとても腑に落ちて、参加していた職員も視界が開けたような気持ちになりました。今後も、連携させていただいて、子どもたちが学校で安心して過ごせるように努めたいと思います。

○診察、検査等の待機時間が短縮され、タイムリーな対応ができると、より未来センター、保護者、学校との連携が円滑になるように思います。



○こども未来センターでの診療等の希望があっても、診察や面談までに数ヶ月待ちとなることが多く、児童生徒やその保護者が困ったときに専門家からの適切な指示や助言が得られにくいことがあります。限られたスタッフの中で色々と検討いただいていると思いますが、改善をお願いします。

○いつも大変お世話になっています。未来センターは学校の相談にも迅速に対応していただき、ありがたく思っています。

○専門家チームの派遣等、指導の道筋を助言していただき参考となりました。

○保護者が児童の診断を申し込んでも、半年待ちになる現状があります。改善をお願いしたいと思います。また、児童が定期的を受診をしても、現状の報告で終わる事もあるようです。保護者はアドバイス、指導的な話も求めています。

○学校現場では、多くの配慮を要する子供たちとその保護者に対して全教職員が連日一丸となって対応している。数カ月に一度の診察・診療で、保護者の訴えをそのまま聞くような対応をされると現場は大変混乱する。「どういう状況か、実際に見にきてから言ってほしい。」ということも言いたくなる。学校現場の思いもくみ取った上で発言していただきたいと切に願っている。

○さらにスムーズな受付・連携ができればと思います。よろしくお願いいたします。

○こども未来センターに行きたくても、遠くて通えないという声を聞きます。分室や出前など、いろいろな地域の方がかわれるような事業があるといいのになと思います。

○いつもお世話になりありがとうございます。

○公的機関である未来センターは、保護者に学校から言いにくいことをもっと話していく必要があると思う。教育と医療の立場の違いからできること、この両輪を回していくことが大切なことだと思います。教育の立場では「教育では成長が難しい、安定が難しい子どもを医療へ繋ぐ」、医療の立場では「医療的な見地から、その子への親の関わり方、教師の関わり方、周りへの理解の求め方」を出すべきだと思います。医療の立場でありながら、保護者を育てよう、保護者に理解を勧めさせようという意識がとても低く見られる。民間の病院であれば、安易に教育に求めようと言わないが、公的機関であるが故に簡単に「教育にお願いしよう」と言われ、その子自身の課題について向き合っていないように思います。もちろん全対応がそのようでは無いとは理解していますが、難しい子どものケースであればあるほど、その傾向が見受けられるのが非常に残念です。

・申し込みが紹介制になったが、保護者が希望をしても学校が紹介したようになっているのはおかしいのでは無いか？と思う。もし、紹介制に変えるのであれば、事前に意図等を説明をしてくれたら

良かった。

- 申し込みの手続きがややこしくなり、学校が書類にサインをするようになっているが、学校にも受診されることを知って欲しい等の情報共有がねらいであれば、受診した際に「学校にも伝えます」「学校にも伝えてください」とすれば良いのではないのでしょうか？
- 特別支援学級が「理由はともあれしんどい子の居場所」の用を感じておられるドクターや職員がいます。不登校というだけで「特別支援学級で休憩をさせてもらったらどうか？」と助言を受けました、と保護者の方から学校に連絡を受けることがあります。特別支援学級をしんどい子の居場所と軽視した対応をされていると感じています。学校体制をきちんと理解して助言をしてくださるようお願いしたいです。
- 保護者の方から「半年待ち」と言われました等、ニーズに対して応えられていない体制は大きな課題だと思います。

○相談支援員さんをお待ちの方が多いため、何か改善策があればありがたい。

未来センターからの研修、情報発信等、広く積極的にしていただけるとうれしい。